



Enterprise Architect 6.1 feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect6.1 機能ガイド



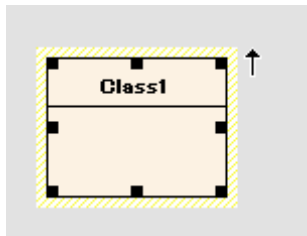
このドキュメントでは、Enterprise Architect6.1 で追加・改善される機能についてご紹介いたします。なお、青文字はその機能を利用するための操作方法です。

クイックリンク

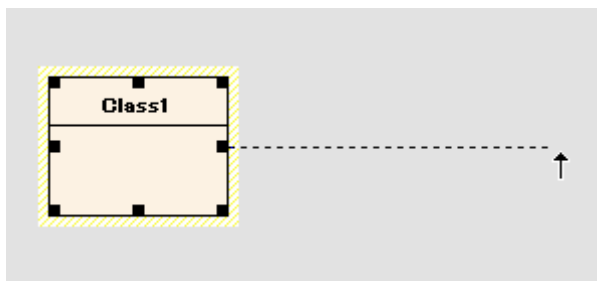
クイックリンク機能を利用すると、UML の図の作成の効率を飛躍的に向上させることができます。

なお、この機能をより快適に利用するために、「要素の作成時に編集」オプションを利用しない(チェックボックスのチェックを外す)ことを強く推奨します。このオプションは、ローカルオプションダイアログの「要素」グループにあります。このドキュメントは、この設定を利用しない状態での説明になります。

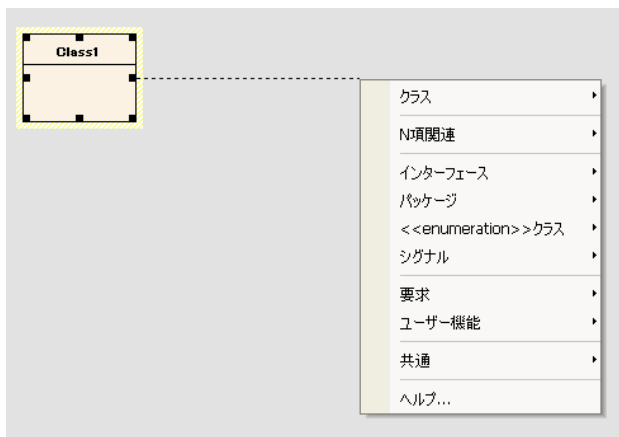
Enterprise Architect6.1 では、ダイアグラム内の要素を選択すると、下の図のように要素の右上に矢印のアイコンが表示されます。



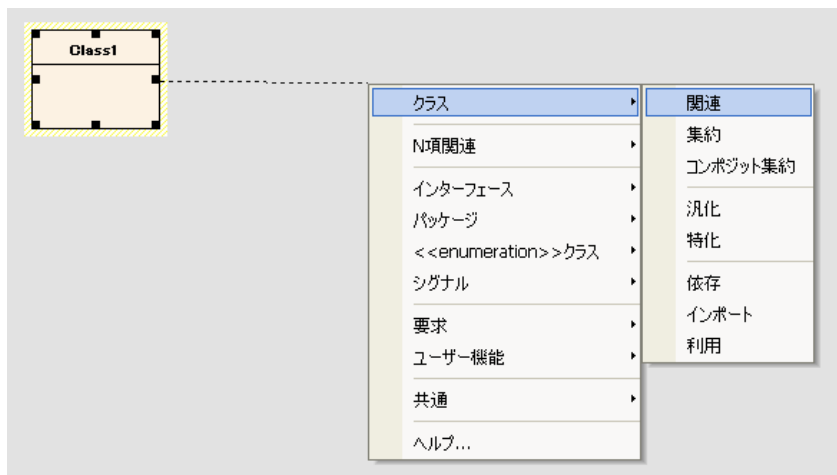
この矢印のアイコンをドラッグすると、対象のクラスからマウスカースルの位置まで点線が表示されます。



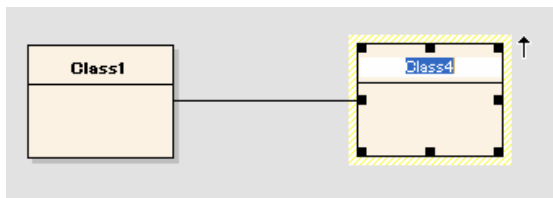
そして、ドラッグを終了すると、その位置にメニューが表示されます。



ここで、作成したい要素を選択します。要素の種類に応じて、要素間を結ぶ接続の種類を選択します。以下の例は、クラスを新規に作成し、関連の関係で結ぶ場合の例です。

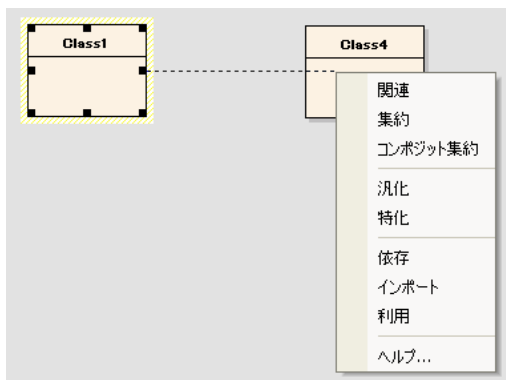


このような操作で、簡単に新しい要素と接続を作成することができます。作成された要素はそのまま選択状態になり、要素の名前の編集モードに入りますので、そのまま新しい要素の名前を入力することができます。



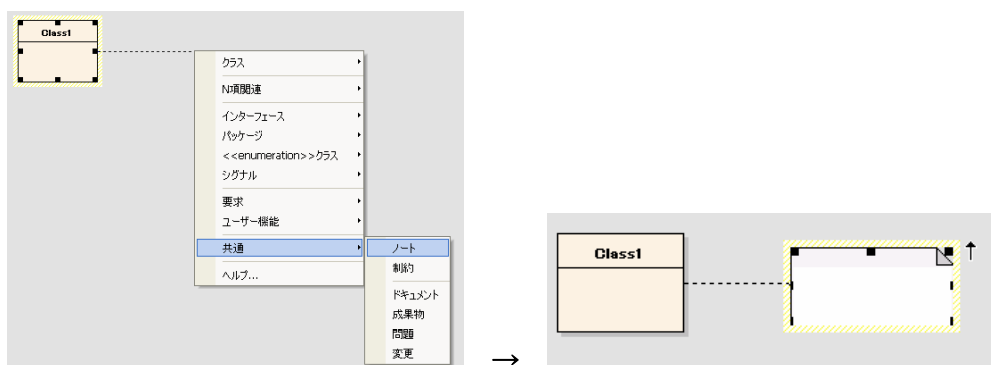
また、既存の要素に対してドラッグした場合には、要素間の接続の種類を設定するだけ

で接続を作成できます。



なお、このメニューで表示される要素や接続の種類は、対象の要素に依存します。例えば、既存のアクターとユースケースの間に接続を作成する場合には、メニューは表示されずにそのまま関係が作成されます。また、UMLの文法上ありえない要素間については、何も作成することはできません。つまり、UMLの文法に準拠した図を簡単に作成できる、ということになります。

さらに、「ノート」へのリンクも簡単に作成できますので、とても便利です。ノートの場合でも、作成後にそのまま入力モードになります。



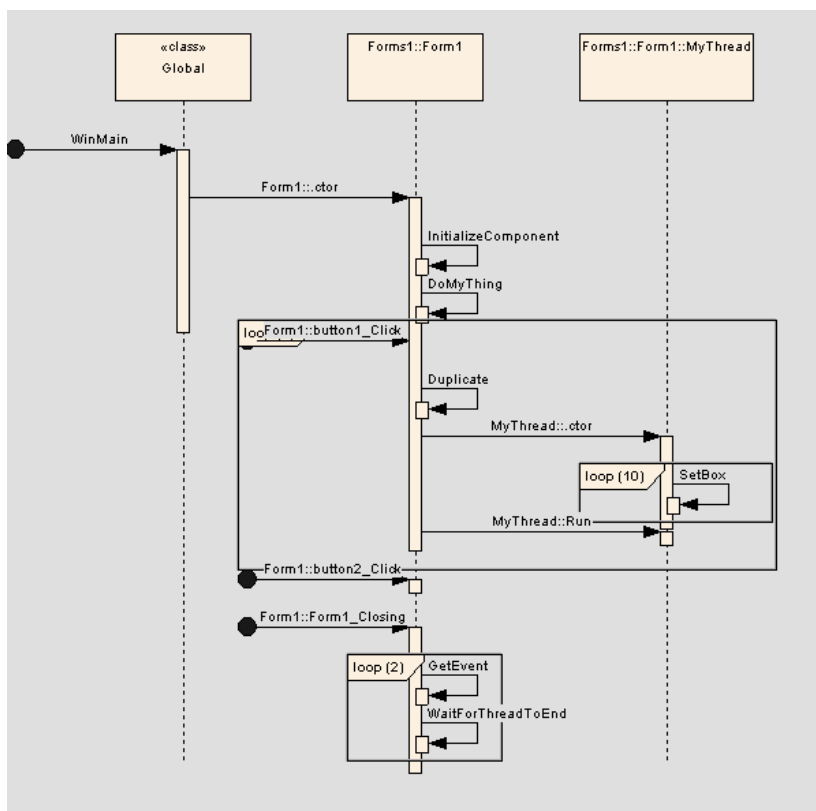
シーケンス図の場合には、矢印のアイコンをドラッグして、対象の要素を選択してください。そのまま、メッセージが作成できます。シーケンス図の場合には、メッセージの作成位置も同時に設定できます。ドラッグ中のマウスカーソルを上下方向に動かして、メッセージを作成・挿入する位置を指定してください。

シーケンス図作成機能の強化

Enterprise Architect6.0 で追加されたシーケンス図作成機能に、次の改善が行われました。

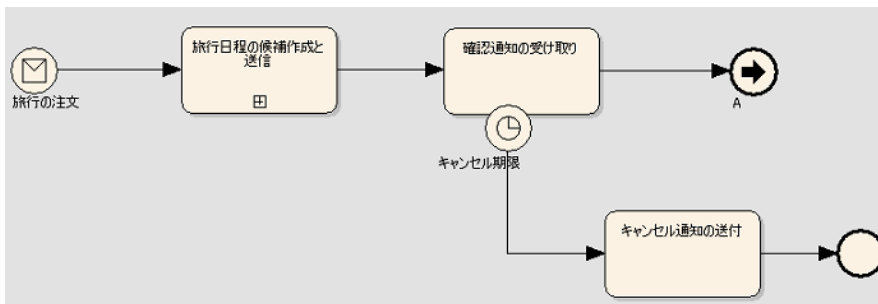
- Java1.4 対応
- .NET フレームワーク 2.0 対応
- 「自動記録」 ボタンの追加
- 「Loop」 複合フラグメントの自動作成

「自動記録」 ボタンを利用すると、ブレークポイントを配置して停止した位置から、自動的にシーケンス図作成に必要な情報を収集し続けます。以前は「ステップイン」 ボタンを連打しなければなりませんでした。簡単に情報を取得できます。



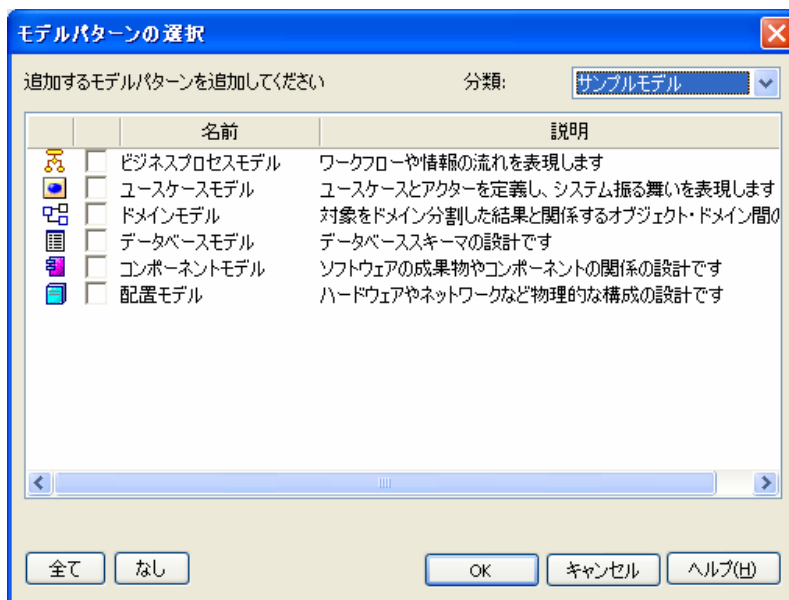
BPMN への対応

Enterprise Architect6.1 では、BPMN1.0 の表記が可能になりました。この詳細は、PDF 形式で配布しているドキュメント「BPMN アドイン 設定ガイド」をご覧ください。BPMN アドインは無料で利用できます。



モデルパターン機能

Enterprise Architect で新規にプロジェクトを作成する際や、既存のプロジェクトのパッケージに対して「モデルパターン」を追加することができます。



モデルパターンとは、パッケージ・ダイアグラム・要素などをひとまとめにしたもので、目的に合わせて事前に作成しておくことにより、簡単に追加することができます。

このモデルパターンは XMI 形式で保存されていますので、それぞれの部署や組織の独自のプロセスがある場合、そのプロセスに応じたモデルパターンを作成して利用することも可能です。

アドインの強化

アドインにイベントが追加され、ダイアグラム内やプロジェクトブラウザ内の要素を選択

あるいはダブルクリックした場合のイベントを取得することができるようになりました。これにより、独自のプロパティダイアログを表示するなどのより高度なアドインが作成可能になりました。

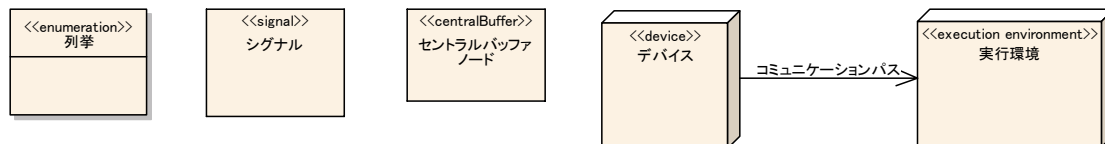
その他、要素や接続の削除のイベントなども追加され、多彩なアドインの作成が可能です。

(追加されたイベント)

- EA_FileClose
- EA_OnPreDeleteElement
- EA_OnPreDeleteConnector
- EA_OnPreDeleteDiagram
- EA_OnPreDeletePackage
- EA_OnContextItemChanged
- EA_OnContextItemDoubleClicked
- EA_OnNotifyContextItemModified

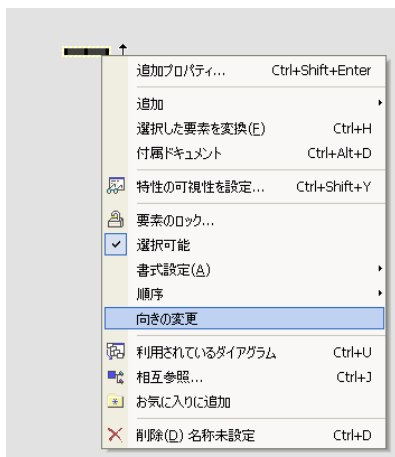
新しい UML2.0 の要素

いくつかの新しい UML2.0 の要素がツールボックスに追加されました。

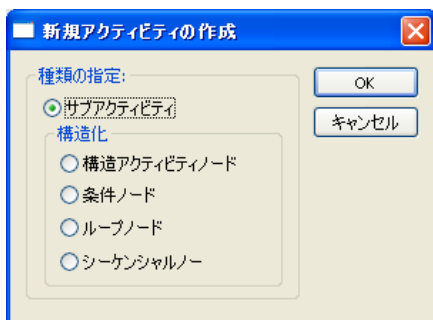


その他の細かい改善

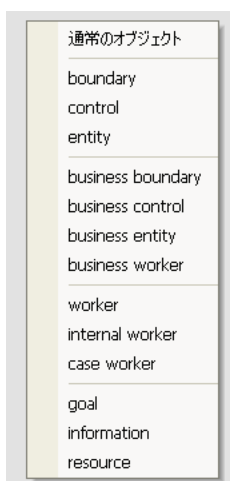
- フォーク・ジョインの向きが変更できるようになりました。



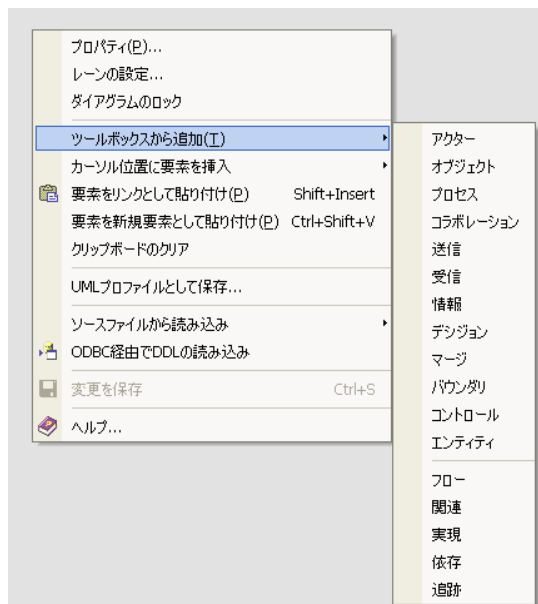
- ツールボックスからサブアクティビティをドロップした場合に、いくつかの要素を選択して作成できるようになりました。



- RTF ドキュメント出力機能のテンプレートを追加しました。
- ツールボックスの「分析」グループの「オブジェクト」要素をアクティビティ図か分析図にドロップした場合に、次のようなメニューが表示され、いろいろなオブジェクトを簡単に作成できるようになりました。



- ダイアグラムのコンテキストメニューに「ツールボックスから追加」を追加しました。現在のツールボックスの要素を簡単に追加できます。



主なバグ修正(日本のユーザーの皆様から寄せられたもののみ)

- ノートの改行が正しく保存されない問題を修正しました。★
- ダイアグラムをコピーした場合、ノートリンクがコピーされない問題を修正しました。★
- ソースコードの読込において、C++の operator () の読み込みを修正しました。★
- EA.Repository.SaveDiagram() の挙動を改善しました。★
- EA.Method.Update() 実行時にエラーになる問題を修正しました。★
- EA.Element.Abstract の値を設定しても変更されない問題を修正しました。★
- 検索ルールを新規に作成した場合、名前に日本語を作成すると文字化けする問題を修正しました。★
- メニューからリリースメモが表示されない問題を修正しました。★
- 掲示板の投稿を読んでも既読にならない問題を修正しました。★
- マトリックスプロファイルを呼び出したとき、一部の表示が乱れる問題を修正しました。★
- 状態間の遷移を、SHIFT+左クリックで他の状態へ遷移を変更するとエラーになる場合がある問題を修正しました。★
- 接続の削除後 Undo して再度削除すると不正終了する問題を修正しました。
- SQL Server の DDL 生成時に、外部キー制約の出力の際に別名が利用されない問題を修正しました。★